

アルバータ大学語学研修を通して学んだこと

看護福祉学部 看護学科 2年

私がカナダに到着してまず感じたことは空気がとても乾燥していて涼しい気温だということです。出発前にカナダで山火事が起きたというニュースを見ましたが、この乾燥なら山火事も起きるだろうと納得しました。

そして、ホームステイ先で初めての食事は、キャンプファイヤーの火で焼いたウインナーを入れたホットドッグでした。後日に食べた鶏肉も裏庭にあるBBQ用のグリルのようなもので焼いたもので、家の中で食べるものでもわざわざ外で料理するのが普通だと知りました。ホストファミリーは犬を二匹飼っており、何度か散歩に行く機会がありました。人とすれ違ふと必ずといっていいほど、挨拶を交わして調子はどうですかといった会話をしていました。近所の人達だけでなく見知らぬ人たちにも挨拶をするという文化がとても印象的でした。散歩をしていると、エドモントンは犬を散歩している人や自転車の数がとても多いと感じていましたが、授業でエドモントンに住む10人のうち6人は犬を飼っているという統計があると知り、とても驚きました。

アルバータ大学では、ディスカッション中心の授業を行い、カナダ人の食生活やカナダの先住民族、また人種差別など様々なテーマを英語で話し合いました。授業を通して、日本では習ったことの無いスラングや述語を学ぶことができ、とても楽しかったです。日本の学校の授業の場合、授業時間のほとんどを先生が話し、生徒はノートを取り授業を聞くというのが一般的ですが、カナダの授業の場合、先生が話しているのを遮ってまで質問をしても何の問題もなく、生徒が話すという時間がとても多いのが一般的だと知り、とても驚きました。

課題でカナダ料理の定義を調べてくるものがあつた際、調べてみるとカナダは様々な国や民族の人が暮らしているため、カナダ料理の定義はないということを知りました。ショッピングモールでも本当に様々な国や民族の人達が買い物をしたり、働いたりしていて、多様性が認められている国なのだと改めて感じました。

そして、アルバータ大学での授業を通して、もっと英語を勉強したいという想いが大きくなりました。今後さらに英語の学習を進め、自分の英語に自信が持てるようになりたいです。